

第2回 e-learning コンテンツ作成 WG 議事録（確定）

日 時 : 令和5年7月26日(水) 10:00~11:40
形 式 : ハイブリット会議(現地+Zoom)
場 所 : 日本薬学会会長井記念館 薬学教育協議会事務局(ホスト会場)
出席者 : 別記1
配布資料 : 別記2

1. 委員会日程の確認(資料1)

木下委員長より資料1に基づき、今後の委員会日程について確認がなされ、これが了承された。

2. e-learning コンテンツ作成に向けた委員からのご意見(google スプレッドシート 資料2)

エクセル形式により、各委員からのご意見をまとめた資料2について紹介がなされた。また、裏面は参考資料の名称と URL を提示した旨の説明が併せて行われた。

3. ワーキンググループのチーム構成(案)について(資料3)

木下委員長より資料3のワーキンググループのチーム構成(案)について、本資料は各委員の先生方よりご提示いただいた意見を踏まえ、コンテンツの枠組としてはこのような6項目が必要ではないかというチーム構成案であるとの説明がなされた。

6項目の枠組みとその理由について、木下委員長より項目ごとの詳細な説明があった。

1 Society5.0をはじめとする未来社会のイメージ

このコンテンツには未来社会をイメージすることも必要ではないかも考えた。医療、薬学の場面で今後どのように進化するのも踏まえ、イントロ的に考えている。

2 データサイエンスの基礎的リテラシー

データサイエンス 新たに入ってきた領域でもあり、基礎的な部分に必要ではないか。

3 AI の知識

この分野AIの教育を各大学がどのように対応したらよいかの知識を教授するようなコンテンツとして項目とした。

4 (医療) ビッグデータの基礎(テクニカルターム含む。)

ビッグデータ、特に医療ビッグデータが様々なものが出現してきたので、基礎的な考え方、テクニカルタームを含むようなこととして挙げた。

5 医療ビッグデータを用いた疫学研究

具体的なビッグデータを使った疫学研究にはこのようなものがあるという紹介ができればと項目とした。

6 関連資料リスト

これらの1～5に関連する資料を纏め、リスト化して各大学でご利用いただける枠組みが必要ではないかとして項目とした。

木下委員長より資料3の項目立ては、あくまで私案であるので、資料2及び資料3をとおして意見交換をいただきたいとの発言があった。

主な意見

- ・ 研究実施する側の利用なのかどうなのかという視点はいかがか。
- ・ コンテンツを作るのか、e-learning を作るのか。
- ・ 各大学で教育が困難な領域に対して、共通コンテンツを作ることが主旨である。
- ・ 低学年か高学年向けか、一般医療向け、薬学向けか大きなカテゴリー分けが必要ではないか。
- ・ ターゲットをどこにおくのが重要ではないか。
- ・ 各大学が教育できる内容として、第一義的には教員対象である。学生の参考となれば使っていただきたい。具体的なコンテンツのほかに授業の Good Practice を考えていただいてよろしいが、e-learning とコンテンツが無いと問題となる。
- ・ 低学年か高学年か研究レベルまでかは悩ましい。コアカリのレベルが上がっていて、臨床研究のデザイン立案も項目に入っている現状である。
- ・ 動画の目的をハッキリ決める必要があるのではないか。
- ・ コンテンツに期待を持てば、中身にずれがあると、悪いイメージが持たれるのではないか。
- ・ コンテンツの目的と対象を決めることが必要ではないか。
- ・ 大学のオリジナリティーを活かせる内容が必要ではないか。
- ・ 共通部分を作っていく方向で進めることはどうか。
- ・ 学部長レベルの先生方も何をすればよいのか模索しているようである。
- ・ 基本的な部分を提供できればよいと考えるがいかがか。その先は、大学のミッションや資源に任せればよいと考えるがいかがか。
- ・ 大きく作り具体的部分は各大学にお任せすることが主旨である。
- ・ WG で作る e-learning は、基礎と応用を繋ぐイントロダクション的なものが必要ではないか。目的とボリュームが重要だが、細かい部分は大学が行えば良いのではないか。
- ・ 医療、介護分野で DX について項目1で示し、コンテンツのイントロとして考える。臨床現場で働いている先生方の視点が重要でもある。
- ・ テクノロジーに関するリテラシーは、教育現場で必要である。医療 DX 関係を盛り込んでいただきたい。テクノロジーがどう実装されているかを「学生や先生方」に知っていただき、基本的リテラシーをイメージできるようになっていただきたい。
- ・ 現場では、電子処方箋、カルテの共有化、地域医療連携ネットワーク等が運用されている。ベースになる部分を e-learning コンテンツに盛り込んでいただくことはいかがか。

- ・ イントロ部分が大切、ワクワクする内容を作っていただきたい。
- ・ どういうものを作るかのビジョン共有が重要。WG の位置付けを考慮し、コアカリ各項目のねらいや学修目標等も整理することが必要ではないか。
- ・ 各コンテンツごとにコアカリの項目との関連性をみることはいかがか。
- ・ 演習ができればより良いのではないか。
- ・ 仕事に応用できるものが入るべきである。特徴あるものが良いのではないか。
- ・ コンテンツのボリュームが大きすぎると思われるがいかがか。
- ・ イントロの充実が重要ではないか。
- ・ 臨床でどう使われるのかが必要。細かい部分は大学が担うことが良いのではないか。
- ・ 時間と予算が限られていることも考慮すべきではないか。
- ・ イントロ的な繋がりが良いが、3 の AI の知識は漠然とし過ぎていないか。
- ・ 高校生のための統計学教材がヒントになるのではないか。

各委員からの意見交換の結びに、木下委員長より e-learning コンテンツはエッセンシャルを目指すこと。大学との授業の関係性に気を付けながら、学びの切っ掛けを作ることがこの WG の仕事とも感じていると発言がなされた。

4. コンテンツ作成のロードマップ（案）について（資料4）

(1) 今後、WG における業者の参加について

資料4に基づき、木下委員長より会議日程の説明とコンテンツのリリース時期（1 月末）を踏まえ、作成にあたっては外部業者に依頼することを考えている。可能であれば選定された業者を次回の WG から同席いただくこととしたいとの発言があり、これを了承された。

(2) 本 WG の進め方について

木下委員長から今後の WG の進め方として、資料3をたたき台とし先生方のご意見を踏まえ、項目ごとの建付けを作成するため、項目をご担当いただく先生を決めた上でご検討を進めていただき、出来上がった素案によりで意見交換を行うことの提案があり、これが了承された。

(3) 項目ごとの担当について

項目ごとの担当の先生として、1 を出口先生、原口先生、細谷先生 2 を松野先生 3 を酒井先生 4 を近藤先生 5 を今井先生の各先生方にご担当いただくことが了承された。

なお、6 の関連資料リストは、項目ごとにご担当の先生方で持ち寄ること。また、全体を木下委員長にご担当いただくことが併せて了承された。

(4) e-learning 外部業者について

e-learning コンテンツ作成にあたっては、外部業者に依頼することの提案がなされた。

業者への依頼事項については、動画の作成と配信、双方向による演習問題、全体金額等を含めた内容を基本仕様としたいとの発言があり、意見交換がなされた。

また、事務局より本件である e-learning 用コンテンツ作成には、約六か月程度の期間が必要ではないかと想定していた。業者にはクラウドによりコンテンツ及びシステムを構築いただくが、教材形式、運用要件、各種ライセンス、納品形態、ソフト等や経費の提示をいただく、また、文部科学省の委託事業費ということも踏まえ、全省庁統一資格、役務提供の B 又は C 等級に格付けされた業者に提示させていただくことの説明があった。

木下委員長より、本来であれば、この WG の先生方によりプレゼンを実施することで業者選定を進めるべきであるが時間的に余裕がないことも踏まえ、業者選定について、本間代表理事、木下委員長、事務局に一任いただきたい旨の発言があり、種々意見交換の結果、了承された。なお、文部科学省には必要に応じご意見をいただくことが了承された。

木下委員長より、今後、業者選定を進め目標としては、次回委員会より選定業者を本 WG に参画いただくことを目指していくことが確認された。また、ロードマップが流動的になる部分があるが、リリース版の最終確認は、1 月 17 日、第 8 回の WG を目標に進めていくことも確認された。

5. その他

- ①木下委員長より今後、たたき台をベースに意見交換を進めるため Google Docs を立ち上げることの提案があり、了承された。
- ②業者選定後コンテンツをまとめて作成することとなるが、各大学薬学部のパラットホームが想定以上にバラバラでコンテンツが乱立している状況であることは分かった。
 - ・今後の課題として e-learning コンテンツのサーバをどこに置くか。
 - ・サーバの維持費はどうするか。
 - ・経年的に必要なランニングコスト等の管理運営費用も確認したい。
- ③業者選定について、文部科学省に仕様書をお示しすることとなった。
- ④本委託事業の報告について、資料のロードマップから 3 月に内容確認の上、フィックスされた後、取りまとめることの確認がなされ、改めて 3 月中に文部科学省へ委託事業の成果を報告することの再確認がなされた。
- ⑤Docs の立ち上げ後、自由にご記載ください。建付けも先生方でご検討していただきたい。
- ⑥次回の開催は、8 月 23 日です。木下委員長は現地で参加するとのこと案内がありました。

別記 1 e-learning コンテンツ作成ワーキンググループ第2回（7月26日開催）

構成員氏名	所 属	出欠席	備 考 欄
木下 淳	兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野	Web	
今井 志乃ぶ	昭和大学薬学部門薬剤疫学部門	Web	
近藤 悠希	熊本大学大学院薬学教育部臨床薬理学分野	Web	
酒井 隆全	名城大学薬学部医薬品情報学研究室	Web	
出口 芳春	帝京大学薬学部薬物動態学研究室	Web	
原口 亨	公益社団法人日本薬剤師会	Web	
細谷 治	日本赤十字社医療センター薬剤部	Web	
松野 純男	近畿大学薬学部医療薬学科	Web	
本間 浩	一般社団法人薬学教育協議会	Web	
オブザーバー	文部科学省高等教育局医学教育課		

別記 2 e-learning コンテンツ作成ワーキンググループ第1回（6月21日開催）

<配付資料>

資料1 e-learning コンテンツ作成 WG 委員会日程

資料2 e-learning コンテンツ作成に向けた委員からのご意見

資料3 ワーキンググループのチーム構成（案）

資料4 コンテンツ作成のロードマップ（案）

会